



学校だより

8・9月

「わかる つながる 高め合う」のびていこう はやぶちっ子

遊びは学び 学びは遊び

校長 鈴木 智彦

夏の暑さに負けることなく、オナモミが大きく育っています。子どもたちが遊びの中で実を見付け、「なぜくっつくのだろう」「どうしてこんな形をしているのだろう」と興味をもつかもかもしれません。

身近な自然との出会いが、子どもたちの探究心を育むきっかけになることを期待しています。

こうした何気ない遊びや発見の積み重ねが、子どもたちの豊かな育ちにつながっていきます。

最近、テレビCMでも紹介されている「はじめの100か月」（こども家庭庁動画参照）は、子どもの育ちの土台となる大切な時期を表す言葉です。本校でも、その考え方を踏まえながら、子どもたち一人ひとりの育ちと学びが切れ目なく続くよう、地域の園との連携を大切に、「幼保小の架け橋プログラム」を進めています。

その一環として、7月22日（水）本校職員が港北幼稚園・ゆうゆうのもり幼保園を訪問し、子どもたちの育ちの様子を参観するとともに、園長先生から「架け橋プログラム」についてお話を伺い、幼児期の学びと小学校教育とのつながりについて理解を深めました。

遊びを通して、自分らしさを発揮しながら友達との関わりを広げ、相手を思いやる気持ちを育ていく子どもたち。その一つ一つを、保育者の皆さんは「ドキュメンテーション（子どもたちの遊びや学び、成長の様子を写真や言葉で記録し見えるようにしたもの）」として丁寧に記録し、保護者と共有されていました。子どもの成長を見守り、共に喜び合う姿勢に、私たち職員も多くのご示唆をいただきました。



上記は、研修後の職員の感想です。夏休み明けの子どもたち、それぞれの育ちや経験を大切に受け止めながら、「明日も学校に行きたい」と思える学校づくりを進めてまいります。

今後とも、本校の教育活動へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。